

【通覧による指導】

- 1 期日 5月12日(木)
- 2 通覧指導の流れ
 - ・本校は、「能力ベースの授業」に向けた算数科における授業改善を図るため、まずは現在の授業を見ていただいた。3つ学年の授業をそれぞれ20分ずつ、指導案は作成せずに見ていただき、授業後にどのように改善していくと良いのか指導を受けた。
 - (1) 4年生算数「折れ線グラフと表」(通覧20分)
 - (2) 2年生算数「ひき算のしかたを考えよう」(通覧20分)
 - (3) 6年生算数「数量やその関係を式に表そう」(通覧20分)
 - (4) それぞれの授業についての事後指導。授業を能力ベースに変換する際のポイント解説。
 - (5) 能力ベースの授業づくりのやり方、考え方についての全体的な解説。
- 3 齊藤先生や教育委員会による指導の内容
 - ・能力ベースとは＝何を教えるかではなく「どんなことができるようになるか」
 - ① 「学びを通して何ができるようにしたいのか」を考える。
 - ② 「教科らしい学びのプロセス」を描く。
 - ③ 「単元のゴール」をイメージする。単元はあるものではなく描くもの。
- 4 感想、振り返り
 - ・CS解説を教師がしっかり読み込み、内容を理解することが必要である。
 - ・Why(なぜ)、What(何)、How(いかに)のうち、Whyをまず最初に考えることが非常に重要だと分かった。習慣づけていきたい。
 - ・授業のねらいを教師が正確に理解し、授業が活動あって学び無しにならないように気をつけなくてはいけない。
 - ・系統性の大切さを改めて感じた。過去の学習経験を把握し、それを生かした授業展開を考えたい。
 - ・子どもの力を信じ、子どもの良さを引き出す授業をつくっていきたい。

【能力ベースの授業づくり校内夏季研修会】

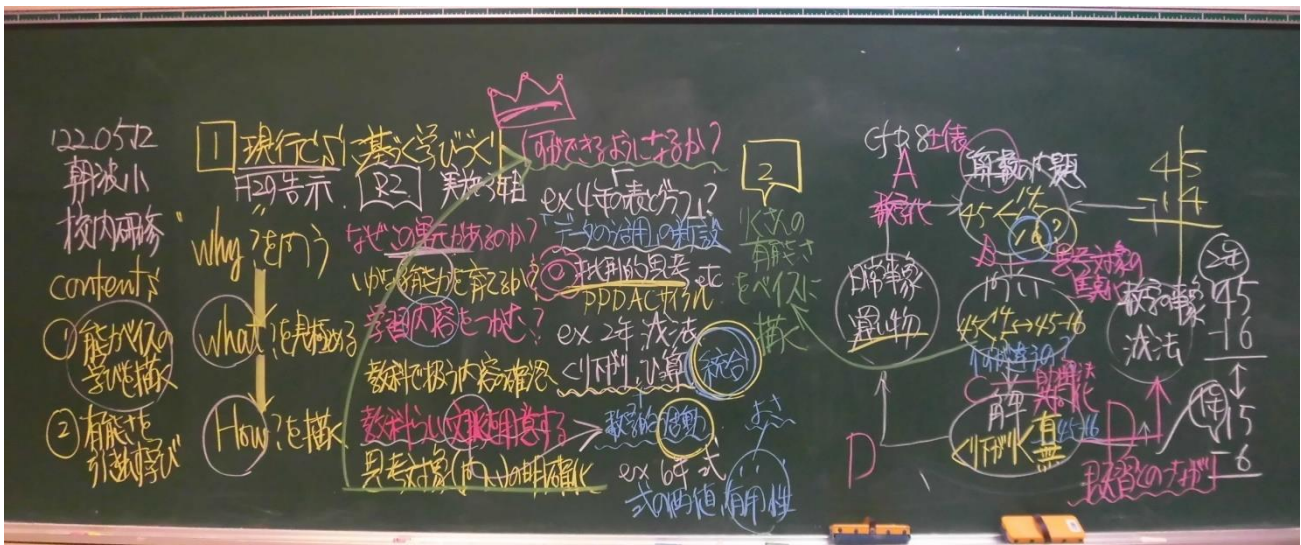
- 1 期日 8月23日(火) 於：朝波小学校
- 2 実施内容
 - ・本校では、5月の通覧指導を受け、「系統性」を理解することが非常に重要であることが感じられたため、算数科の能力ベースの授業づくりを進めるにあたって、どの学年も「図形」領域に絞って研究を進めていくこととした。校内夏季研修では、今年度実施する全研究授業の指導案を前倒して作成しておき、齊藤先生に1～6年生までの算数科「図形」領域の指導案を通して見ていただいた。
 - (1) 各学年指導案発表
 - (2) グループ協議 課題A「なぜ、3年生で円の学習を行うのか？」
課題B「H20CSで『量と測定』であった面積が、H29ではなぜ『図形』領域になったのか？」
 - (3) 指導①算数科における6ヵ年での見方・考え方の成長を概観する。
②各学年で学ぶ「概念」とそれぞれの学年で扱う「教材」の関係について
- 3 感想、振り返り
 - ・CSを読み込み、Why(なぜ)をもっと問い直すことが必要であると感じた。
 - ・今回のご指導では、「見方・考え方」が学年に応じてどのように変わっていくのかが非常によくわかった。「図形」の領域に特化することで分かりやすかった。
 - ・学年ごとの身につけさせたい概念(「直角・直線」「等長・等辺」など)とそれぞれの学年で扱う教材(「正方形・長方形」「円・正三角形」など)を整理して考えることの重要性が理解できた。



↑ 2年生通覧授業の様子(5月12日)



↑ 授業後の指導(5月12日)



↑ 指導板書(5月12日)



↑ 指導板書(8月23日)

【通覧指導情報共有資料2 高山小学校発表資料】

大田市立高山小学校の取組

R4.11.10 教頭会資料

【通覧による指導】

- 1 期日 10月3日(月)
- 2 授業参観後の指導



①教材の価値 ②子どもの能力 ③指導の工夫

- ・ 1年算数「どちらが大きい」
属性への関心を持たせる・・・無自覚に判断している根拠⇒根拠を明確にして価値を確認する
子どもの思考を高める問いかけ・・・具体的操作をかさは水に置き換えると可視化できる
- ・ 2年算数「長方形と正方形」
生活から学びをつくる・・・安定した生活⇒的確な表現
学びに目的を持たせる・・・目的的な活動⇒子どもの経験の置き換え
- ・ 3・4年算数「大きい数のしくみ」
十進数の理解・・・4年生までで完成を(単位とそのいくつ分で表現、数の相対的な大きさ)
子どもに期待する能力・・・論理的思考、類推 省力化・効率化のよさを感じる

3 管理職、研究主任との懇談

- ①校内研究についての説明
- ②県複式教育推進事業授業公開の指導案について
 - ・ 同単元異内容の授業は相互の学年にとって有益であり、複式の良さを生かせる。
 - ・ 今回の指導案の単元構成は、ゴールが違うのでこのままでは当てはまらない。同教材異内容の授業構成ならできるかも。
 - ・ 他の単元で指導書の年間計画にない同単元異内容の授業を組むこともできるが、そのためにはしっかりと教材研究が必要。
 - ・ 複式のカリキュラムができていないことが問題。

【能力ベースの授業づくり研究会(複式教育)】

- 1 期日 8月8日(月)
- 2 指導内容



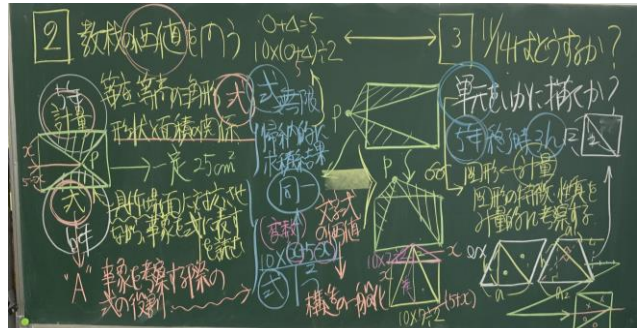
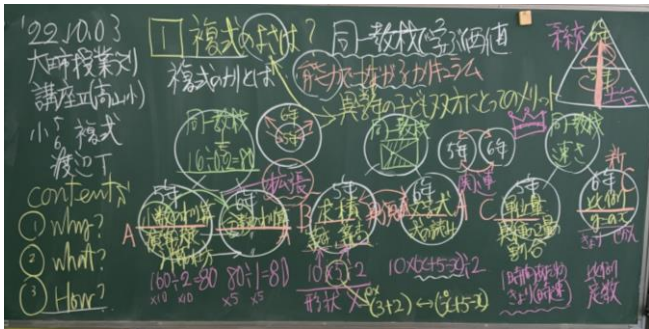
・ 学びのゴールは何か? なぜこの2つの単元がるのか? ⇒統合的に捉える

- ・学習対象を見極める 根拠を見極める
- ・プロセス志向で学びを描く プロセスそのものが能力

【教材研究会】

1 期日 10月3日(月)

2 指導内容

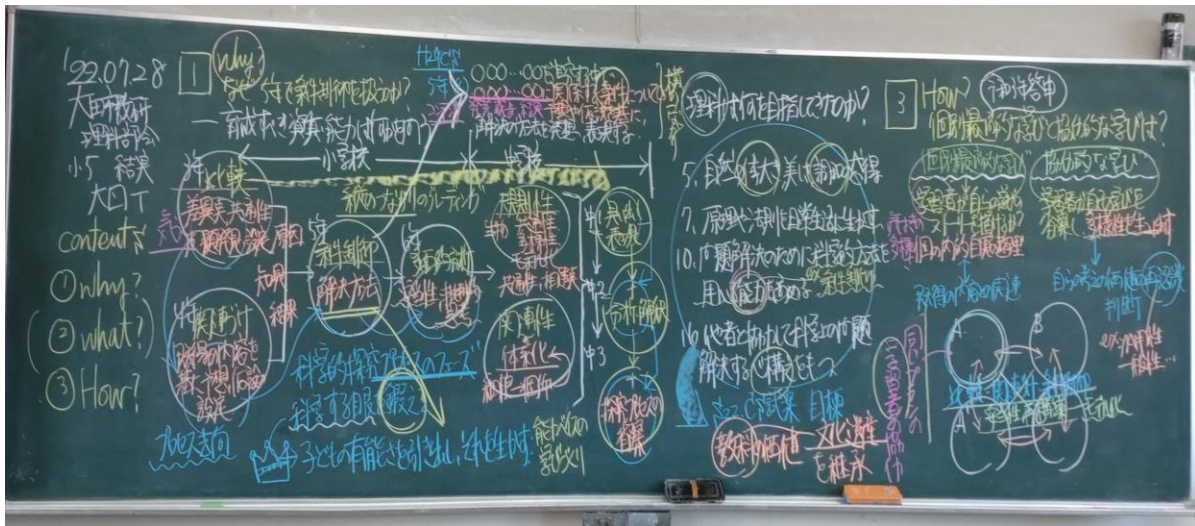


- ・複式のよさについて 同一教材で学ぶ価値⇒異学年の双方にとってメリットがある
- ・複式のカリキュラムとは 能力でつながるカリキュラム
- ・教材の価値を問うことが大切
- ・県複式教育推進事業の授業をどうするか

【感想】

- ・学習指導要領に書かれていることを理解していくことが大事だが、なかなか読み取れないことが多いと感じた。基本は、能力ベースとは＝何を教えるかではなく「どんなことができるようになるか」という視点で見ることだと思った。
 - ① 「学びを通して何ができるようにしたいのか」を考える。
 - ② 「教科らしい学びのプロセス」を描く。
 - ③ 「単元のゴール」をイメージする。単元はあるものではなく描くもの。

【参考；理科について（理科部教材研究会より）】



ポイント 3年；比較 4年；関連付け 5年；条件制御 6年；多面的分析